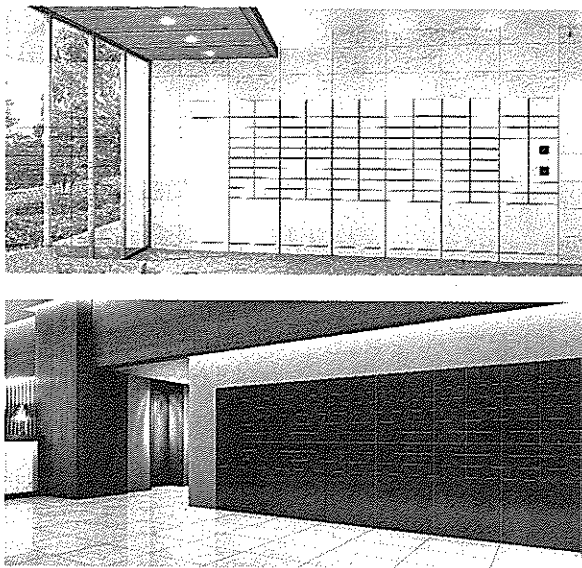


24時間荷物受け取り可能 宅配ロッカー業績拡大

宅配ロッカーメーカー大手フルタイムシステム（東京）の子会社で、同社製関連機器の開発・設計を担うフリートックエンジニアリング（宮崎市、佐々木栄一社長）が業績を伸ばしている。同社が製造する「フルタイムロッカー」は「非対面で24時間荷物の受け取り可能」といった利便性から拡大。市場の約7割を占めるフルタイム社の実績を背景に2023年の設立後売上高は倍増。今後、従業員も増やす方針だ。

フリートックエンジニアリング（宮崎市）

フルタイムロッカーは入れ、注文者が操作キー商品が届ける際に相手先やICカードをセンサーが不在だったり、置き場にかざすと扉が開いて荷所としてロッカーが指定物を受け取れる。フルタイム社は1983（昭和58）年に世界に先駆けコンピューター制御。操作画面に部屋番3（昭和58）年に世界に



マンションの内装と一体化したデザインのリタイムロッカー（①は写真中央、②は写真右）フルタイムシステム提供

開発・設計 従業員増へ

御式宅配ロッカーを開発。同社の調査では2024年の国内販売分譲マンションの導入実績は73・7%。全国5万7千カ所に設置され、600万人以上（25年9月時点）が利用している。20年には「最も長期に回り営業している電気式宅配ロッカーサービスパロバイター」としてギネス世界記録に認定。25年には日本デザイン振興会のグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞した。

ロッカーはマンションなどの大きさに応じて選ぶことができ、スタンダードの3列タイプは高さ1が80センチ、幅1が50センチ、奥行60センチ。マンションエントランスの内装と同一デザインにもでき、冷蔵・冷凍機能付きのタイプもある。近年は事業所や民間の戸建て、公共施設などにも設置されている。フリートック社は、本社の製造外注先が本県にあつたことや本県出身者が複数いたことなどが縁となり、22年10月に前身のフルタイムシステム宮崎事業所が県の立地企業として進出。23年に完全子会社化した。

設立時に3人だった従業員は現在15人。板金設計や荷物センサー、制御ユニット、操作パネルなどの開発を手がけ、製造は九州各県の協力会社に委託し、自社ではメンテナンスも手がけている。ソフトウェア品質の向上などをテーマに宮崎大との共同研究も進行。今後はソフトウェアの担当者を中心に従業員数を30人まで増員する考えだ。フリートック社の秦秀一専務は「ニーズに応じた新たな技術が生まれ日々利便性が高まっており、今後も多様な展開が見込める。地域に貢献しながら未永く続いていく会社でありたい」と話している。

フリートック社は、本

（伊佐賢太郎）